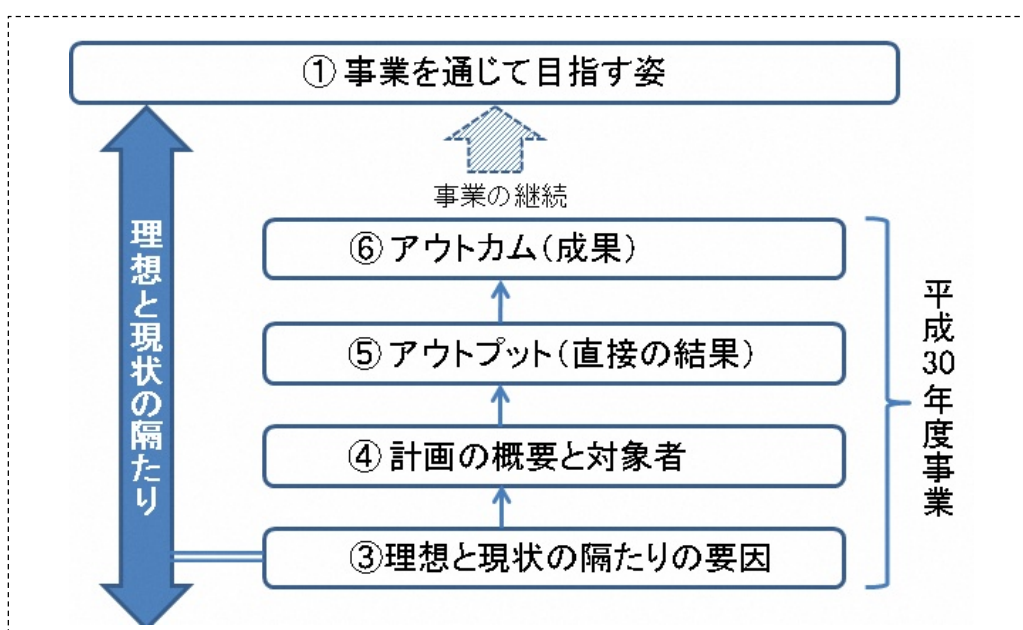


事業計画書

事業名	体験型離乳食教室「まんま教室」～あかちゃんから大人まで～
団体名	子育てひろば はなっこ

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

- ・乳幼児を持つ親子が健康で明るく安心して子育てができる社会になることを目指す。
- ・子育て支援やサロンと連携を強化し、乳幼児の親世代が離乳食に不安を持つ中において、調理方法を体験型にすることで、食への関心が高まり家族の食生活も豊かになることを期待する。
- ・大学生等に託児に参加してもらい、小さい子どもと接することや離乳食に触れることで、乳幼児の食事を理解し、自身の食生活を見直すきっかけとなることを期待する。
- ・大学生が実際に離乳食を作ることで、調理の仕方を学び、自身の食生活に関心を持つことに繋がり、同世代の学生に食育の一端となる波及効果を生むことができる。
- ・事業に関わるスタッフ間で課題や成果の共有を行い、お互いの意識を高め合うことができる。
- ・第二次倉敷市食育推進計画の若い世代への普及啓発の推進に寄与できると考える。

2 現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

現代の乳幼児を取り巻く環境や食生活は大きく変化しています。核家族化や少子化などで、周りに相談する相手が居ないことや、ネット社会の情報の多様化により正しい情報を選択できにくい傾向にある。また、食生活においても夜間営業が増え 24 時間食べ物が入手できるようになり、手軽な食べ物にと変化してきている。同時に、食に対する意識が薄れ始め親になった時に離乳食を与える際に市販のものに頼ることも多く見受けられるようになった。その中においても、離乳食教室に積極的に参加したり、ネットで情報を得たりして、離乳食を進めていくが、なかなか食べてくれないことで、手作りする意欲が薄れる。また、アレルギーの心配がある子供も多く育児不安を抱え込むことも考えられる。このようなことが引き金となり、育児放棄や虐待につながる可能性もあると言われている。

2 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

近年の子育て世代は働く人も多く、時間が無く手間をかけられないことや、基本的な食に関する知識が少ないように感じる。第二次倉敷市食育推進計画の中でも、20 歳代、30 歳代は、「食品を選んだり、食事を整えたりするのに困らない知識や技術」が他の年代に比べて少ないことが課題となっている。そのことから、「離乳食の作り方がわからない」「作っても食べてくれない」「アレルギーに不安」などの悩みを募らせて虐待に移行するような問題を抱えることも少なくないようだ。また、就学前の子どもに偏食のある子どもも多くみられ、旬の食材や行事食を経験できていないように感じる。

中には、祖父母世代も近くに住むなど三世代の交流はあるが、今どきの子育て事情によって深く口をはさめないなど、伝統や食への関心が引き継がれていないなどの問題が多い。

また、つながりのある子育て支援の拠点やサロンの状況においても、市販の離乳食の持参を目にすることが多くなっているなど、離乳食などを調理することが少ないように感じる。

3 計画の概要と対象者（平成 30 年度）

上記 3 で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記 7 に記入してください）。

乳幼児を持つ親世代に対し、真備・倉敷市内の子育て支援拠点と連携し、体験型の簡単に作れる離乳食教室を開催し、顔の見える関係づくりと食生活の向上を目指す。若い世代に大学との連携で、託児ボランティアに入ってもらったり大学生に離乳食づくりの（調理の基本の体験）教室を開催することで食育の啓発を狙う。

アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり、事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり、アウトプットが地域や社会、人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると、まず、
というアウトプットが生じ、次にその成果として、
というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施 アウトプット アウトカム

アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月 4 回、各回 20 名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1 千冊作成、800 人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週 2 回、各回 15 名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週 2 回、各回 5 名利用	移動手段の選択肢の増加

4 アウトプット（直接の結果）

平成 30 年度の事業を通じて、どれだけの人に対し、どのようなサービスを提供しますか。

- ・乳幼児を持つ親に対し体験型の離乳食教室を子育て支援拠点と連携して開催する。
- ・大学生等若い世代に対し、託児をしながら乳幼児の食を通じた子育て支援について学ぶ場を提供する。
- ・大学生等若い世代に対し、実際に離乳食を作る体験の場を提供し、自身の食生活の振り返りや調理技術を習得する場とする。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
・体験型離乳食教室開催場所	1 ヶ所	真備地区 1 ヶ所、倉敷地区 1 ヶ所
・体験型離乳食教室開催回数	2 回	2 回
・保護者が受講後継続して離乳食を調理している割合	-----	8 割
・保護者が食への関心が高まったと思っている人の割合	-----	8 割
・大学生に対しての料理教室開催回数	0 回	1 回

・大学生が受講後継続して調理している割合	-----	8 割
・大学生が朝食を食べている人の割合	-----	8 割
・反省会を含めた交流会の開催	1 回	1 回

事業実施後の数値目標は、どのような方法で測りますか。

各取り組み実施後と、その後約 1 か月後にアンケート調査をして把握する

5 アウトカム（成果）

上記 5 のアウトプットが、平成 30 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

- 1 ・参加する親子が利用している真備の子育て支援拠点との連携強化により、教室後も食を含めた子育て支援を継続でき、家庭での離乳食調理の継続につながる。
 - ・子育て支援拠点のスタッフや若い世代である学生の食育に対する理解が深まり、食への関心が高まる。
 - ・幼児教育学部の学生が託児ボランティアを通じて、乳幼児期の食育（食事や接し方）を学ぶ機会となり、将来の職務に活かすことにつながる。
 - ・大学生が関係団体等のスタッフと触れ合うことで、地域社会とのつながりや乳幼児をもつ親子に対する接し方をイメージしやすくなる。
- 2 ・真備地区以外の子育て支援拠点と連携することで、食育の活動の輪を地域に広げることができる。
- 3 ・大学生が調理体験をすることで、乳幼児の食事を理解する事ができる。
 - ・食への関心が高まり自分自身の食生活を振り返る機会になるとともに、調理技術の習得にもつながる。
 - 「食事を作ることは楽しい・美味しい」「大切に育てられたんだ」「仕事の現場でも伝えたい」等
 - ・学生同士の繋がりの中でこの体験を共有することで、食に対する意識が高まり、他の学生等若い世代への波及効果が望める。
- 4 ・事業に関わるスタッフ間で顔の見える関係づくりがすすむ。
 - ・スタッフ間で、課題や成果の共有を行うことで、互いの意識を高め合うことができ食育の推進につながる。

6 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

1 真備地区の地域子育て支援拠点と大学等と連携しての体験型離乳食教室

(対象者) 真備の子育て支援センターなどを利用する 4 ヶ月～1 歳くらいの乳児を持つ親子
くらしき作陽大学生託児ボランティア

(場所) 真備いきいきプラザ、若しくはその他の施設を利用する

(実施期間) 6 月に 1 回

(内容、ねらい) 昨年の「まんまプレート」を活用し、プレートに掲載しているレシピに沿って離乳食の調理体験を行うことで、自宅でも再現しやすい。

また、参加する親子が利用している真備の子育て支援拠点と連携することで、教室後も離乳食について相談することができ、食を含めて支援を継続することができる。

さらに、大学と連携することで、保育士の卵が食を通じての子育て支援について学ぶ場となる。

2 倉敷市内の子育て支援拠点と連携しての体験型離乳食教室

(対象者) 倉敷市内の子育て支援拠点を利用する 4 ヶ月～1 歳くらいの乳児を持つ親子

(場所) 倉敷市内の施設若しくは、拠点の中で開催する

(実施期間) 7 月に 1 回

(内容、ねらい) 子育て支援拠点のスタッフに離乳食について理解を深めてもらい、そこから食育の輪を地域へひろげてもらうことをねらう。

3 くらしき作陽大学幼児教育学部等と連携しての料理教室

(対象者) 幼児教育学部の学生

(場所) 倉敷市内の施設

(実施期間) 8 月に 1 回

(内容、ねらい) 実際に調理体験や試食を通じて、乳幼児の食事を理解する事や食についての関心を高める場とする。また、調理技術の習得にもつなげる。

4 反省会を含めた交流会の開催

(対象者) 事業に関わった団体と大学等

(場所) 倉敷市内の施設

(実施期間) 11 月に 1 回

(内容、ねらい) 関係者同志のつながりを強化する。そして、課題や成果を共有することにより、食育推進の拡がりを期待する。

(2) スケジュール (準備～実施～報告)

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり課と協議 ・各連携団体と打ち合わせを開催する。 ・日程調整 ・開催場所の確保 ・メニューの決定、試作
6月	・第1回真備地区で、体験型離乳食教室開催
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回倉敷地区で、体験型離乳食教室開催 ・メニュー決定、試作
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回大学生に体験型離乳食、調理教室開催 ・1回目の参加者にアンケート調査発送
9月	・2回目の参加者にアンケート調査発送
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の参加者にアンケート調査発送 ・健康づくり課と協議
11月	・交流会(反省会)まとめ
3月	・最終報告

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
松田美津枝	花田助産院 看護師 離乳食講座実施経験 15年 子育てひろば はなっこ 代表	有
松岡国子	子育てひろば はなっこ おやつづくり担当 6年	有
高岸純子	花田助産院 助産師、看護師、保健師 子育てひろば はなっこ 副代表	有
小野直子	幼稚園教諭資格・経験あり 子育てひろば はなっこ 会計 託児責任者	有
守屋和恵	子育てひろば はなっこ 託児担当 5年経験	有
10名を超える場合は、外 名としてください		外(8人)名

7 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する(見込み: 材料費として 500円)

(2) 徴収しない(理由:)

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担	参加費	21,000	真備 15 組、倉敷 6 組、学生 20 人 × 各 500 円 = 20,500 円
会費からの繰入		0	
その他		0	
市補助金		180,000	
収入合計		201,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁	教室開催	12,000	2,000 円 × 6 人分
交通費(会員) ₁	ガソリン代	4,000	1,000 円 × 4 人分
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)		0	
旅費交通費(講師等)		0	
消耗品費	教室・交流会開催	65,000	材料費(食器、ケースなど 10,000) 食材費(試作分 4,000 × 3 回 + 本番 5,000 × 3 + 5,000 × 1 + 交流会 5,000) コピー用紙(A4 ホワイト 15 冊 × 270 = 4,050、ピンク 4 冊 × 550 = 2,200) 角封筒 A 4 (200 枚 1,200 円) クリアファイル 100 枚、その他 10,000 円
印刷製本費	離乳食レシピ版作製・チラシ・アンケート印刷・資料作成	61,000	ラミネーター A 4 フィルム(1,079) チラシ印刷費(マスター 1 枚 15 円 × 30 枚 = 450 + 1 円 × 印刷枚数裏表 2000 枚 = 2,450) プリンターインク(5,743 × 10 = 57,430)
通信運搬費	お願い・案内状郵送	11,000	関係団体用(82 × 20 か所 × 2 = 3,280) 参加者アンケート用(21 組 × 82 × 2 = 3,444) 学生参加者アンケート用(82 × 20 × 2 = 3,280)
保険料	活動保険、行事保険	7,000	活動保険(300 円 × 5 人) 行事保険(1,680 円 × 3 回)
使用料・賃借料	花田助産院使用料	20,000	準備・試作、案内チラシ作成、資料作り、会議、事務作業等使用料(800 円 × 週 2 回 × 12 か月)
外注費・委託費		0	
対象経費計		180,000	
食糧費	お茶・お菓子	5,000	
人件費		16,000	
その他		0	
対象外経費計			
支出合計		201,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の 1 割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。